

アニメ版「雪を食べたいの巻」から考える ちびまる子ちゃんにおける語りの階層

「ちびまる子ちゃん」について語るときに僕が語ること



【概要】 「雪を食べたい・・・」 について

■ さくらももこのほのぼの劇場 「雪を食べたい・・・」

- ・ 短編エッセイ漫画
- ・ 1986年（昭和61年）2月のりぼんに掲載
- ・ コミックス『ちびまる子ちゃん』第2巻／短編集『ほのぼの劇場1』

■ アニメ『ちびまる子ちゃん』 「雪を食べたいの巻」

- ・ 1990年（平成2年）3月4日放送 第9回B
- ・ 脚本・壇原かおる

（「家庭教師がやってきた」「今日は家庭訪問」「まるちゃんカゼをひく」「おかあさんの日（前後編）」「ゆううつな参観日」「まるちゃん、虫歯が痛い」）



「雪を食べたい……」の大筋

発端

清水の雪事情

プロローグ

家

雪見遠足に出発前 (おかーさんに雪持ってきてあげるね)

中盤

雪あそび場

雪見遠足の最中 (かくれんぼ、雪だるま、そり、氷いちご)

結末

家

雪見遠足から帰宅後

(ももこ「雪を入れてきたよ」→溶けちゃってる
→「ちょっとだけのこってたあ」→父が食べる
→「半分おかーさんにあげるんだったのに」→ももこ号泣)

さくらももこが幼稚園児だった頃のお話



アニメ「雪を食べたいの巻」の大筋

小3	家（起床）	無理矢理起こされる
	家（歯磨き）	清水の雪事情→園児期の回想
園児	家（玄関）	母に対し「雪持ってきてあげるね」
小3	家（歯磨き）	「私だってこういう可愛い時期もあったのさ」 「母はもっと変わった」
	家（玄関）	母「また前みたいにおみやげに雪持ってきてよ」
	バス	うっかり眠りこけてしまうのです→園児期の回想
園児	雪あそび場	かくれんぼ→雪だるま→そり→氷いちご
小3	雪あそび場	雪合戦（傍観するまる子）→氷いちご→バス乗車前にトイレ
園児	家（玄関）	おみやげの雪もってきたよ
	家（居間）	父「えらいぞ」→雪溶けてるが少しだけ残ってる→父が食べる →母の分がなくなりまる子が泣く
小3	バス	おみやげの雪持ってくるの忘れてた・・・



『ちびまる子ちゃん』における語りの階層 (漫画)

現実世界

作者

物語内世界

語り手 = 作者

物語内視点

主人公 = 回想された過去の作者

出来事



『ちびまる子ちゃん』における語りの階層 (アニメ)

現実世界

アニメ制作陣

物語内世界

語り手≒講談師

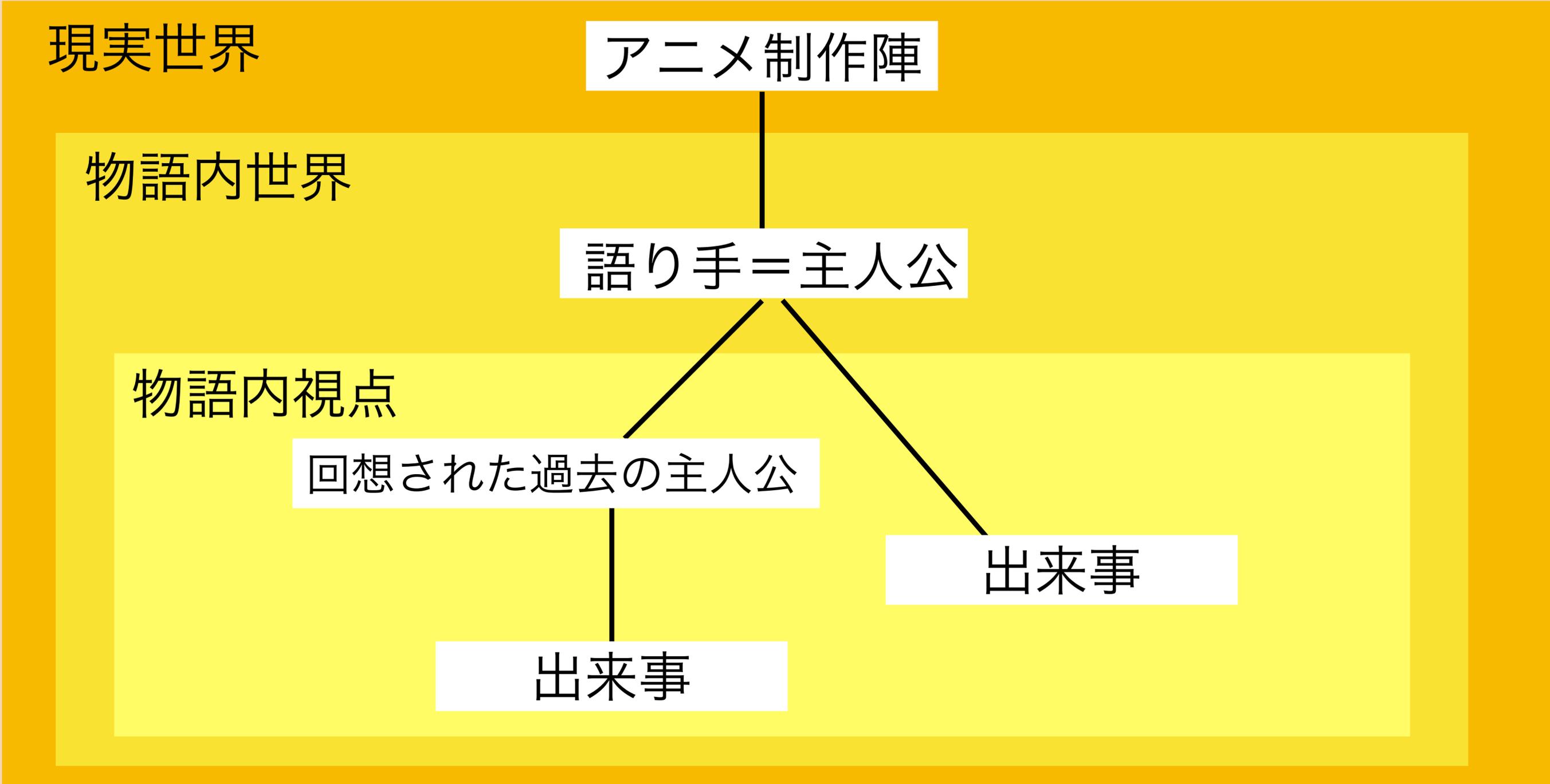
物語内視点

主人公

出来事



『ちびまる子ちゃん』における語りの階層 (雪を食べたい)



『ちびまる子ちゃん』における語りの階層 (雪を食べたい)

